

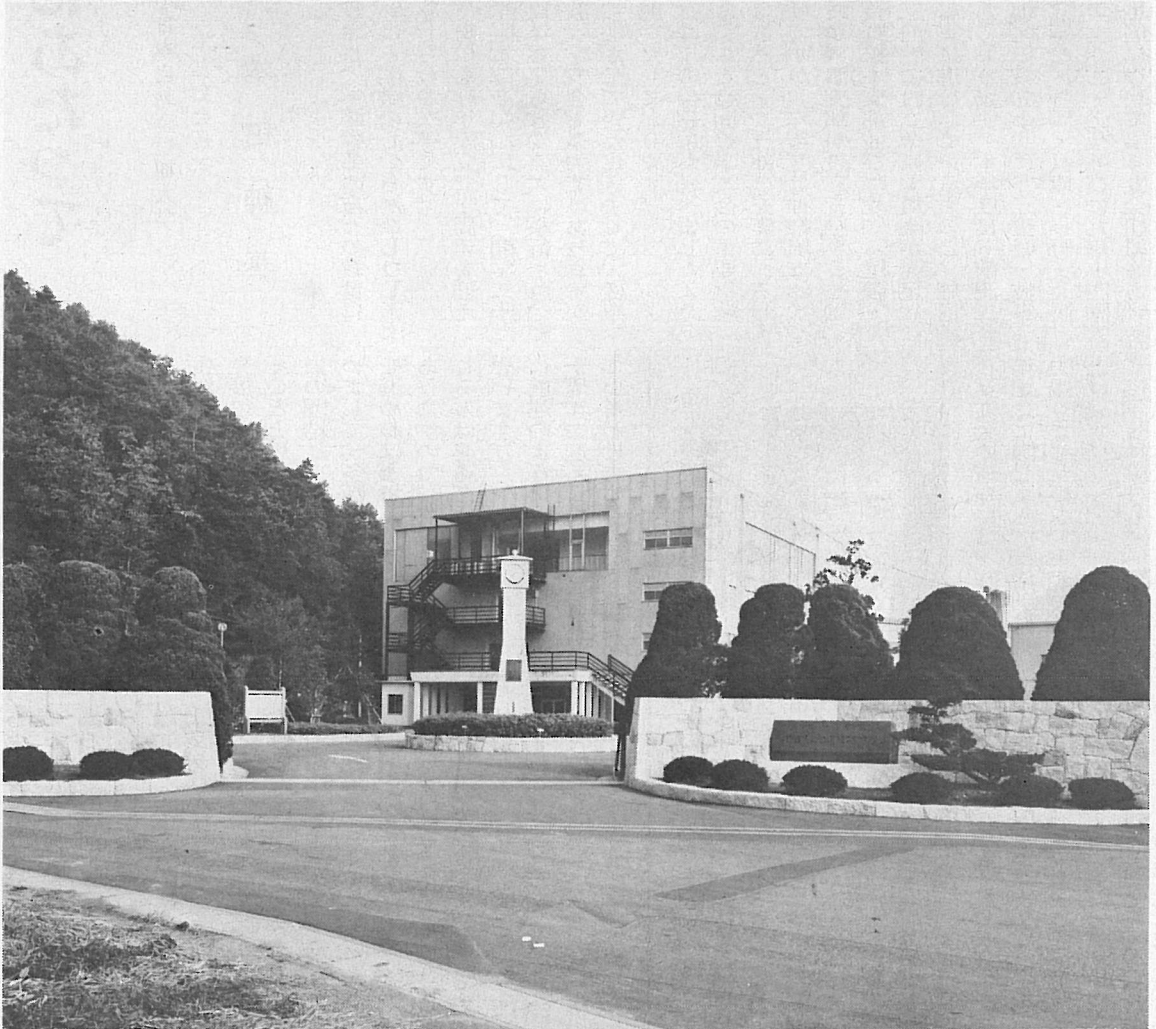
学 友 会

会報

第7号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505 岐阜県加茂郡坂祝町深堂1301 ☎<0574> 26-7121



新学長就任!!

20周年記念総合名簿申込み受付中!

会報発刊にあたって



中日本自動車短期大学
学友会会長

本田 紳 基

本年も会報を発刊する時期となりました。会員のみならず方におかれましては、残暑厳しき折り、増々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて昭和六十二年度の事業計画も順調に実施されております。母校においては、日本で最初に開設された車体整備コースも確実に軌道に乗ると共に時代のニーズにマッチした電子機械コースも順調だと聞いて大変喜ばしく思います。また入学志願者数についても、社会の流れと共に昨年もまして増加の傾向にあり、現在我母校が社会における重要な地位を著々と築きつつあることは大変喜ばしいかぎりです。

なお母校の母体である神野学園も、より社会のニーズに應えるため、名古屋の中心地栄地区に、まったく新しい国際的なカレッジを開

設され、学園幹部の方々の教育における開学の心いきがひしひしと感じられる次第です。

母校も昨年設立二十周年を迎え学園本部を中心にして、開学二十周年事業も大変盛大に挙行され、我々学友会も微力ではありますが参加させていただきまして大変感謝いたしております。

昨年の会報にも述べましたように、ここ当面の学友会の重要事業は依然として支部の充実にあるわけですが、昨年度は神奈川支部、岐阜東濃支部が設立されると共に、長野松本支部並びに愛知(尾張・三河)の設立準備委員会が発足し着実に進行しているものと、確信しております。本年度は、前記二地区の設立と共に、三重県・岐阜(西濃)・静岡・兵庫・長野・北陸(二支部)・山梨並びに九州・四国地区についても学友会組織をあげ

て支援・協力していくつもりでありますので関係諸兄の一層の奮起並びにご協力をよろしくお願い致します。

またこれまでに多数の海外留学生が卒業され、各々自国の産業の発展のために活躍されておられることと思います。そういった会員の団結並びに励ましの意味も込めまして、多数の海外支部の設立を進めねばと考へ、現在模索中でありますので、協力できると思われの方は連絡をくだされば幸いです。

前述のように母校も本年開学二十周年を迎え、ますます発展されているわけですが、O・B諸兄の

方々の中には、現在社会的にも認められた地位に就かれた方も多数あるかと思ひます。どうか今後とも、母校の発展のため後輩の就職並びに入学希望者の推薦など、母校との結びつきを一層強固なものとして、母校共々増々の発展を念願致します。

最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、多大なるご協力ご援助を賜りました大学関係者及びO・B諸兄、特に学内在籍のO・B諸兄に対して心より厚く御礼申し上げます。

学長に就任して



中日本自動車短期大学

学 長

平野 峻 嗣

学友会の皆様には、昨年の20周年記念に際しましては格別にご協力賜りました事を、まずお礼申し上げます。

学長に就任して、について一

言ご挨拶申し上げます。本年は新たな出発点といえる年であり、そのような年に学長に就任致しましたことは、私にとりて大きな喜びであります。

開学21年目として、抱負は多ありますが、本学の使命、すなわち社会的評価の高い学生を育成することを考えますと、やはり何と云ってもまず、人間教育の充実を計る、これに尽きると言えます。本学で学ぶことによって、技術的側面は無論のことながら、人間としての向上がなされることを、私としては切望する次第であります。

そのためには、学園全体で活力ある学園づくりを行っていく必要があります。教職員一同、自己の資質向上に積極的に取り組んでいくことを強く望んでおります。すなわち、教員、技術職員は学生の理解し易い教材開発、及び指導要綱づくりに意欲的に取り組み、教育研究活動も怠ることなく熱意を傾注して頂きたいですし、また事務職員には潤滑油の如く、学園の活動がスムーズに運営できるように、努力して欲しいと願っております。

また、創立当初と比べて学園内の環境も整いつつありますが、それらの施設設備を学生が今まで以上に活用できるよう、さらに学生ホールや事務棟、記念館などを順次、整備・建設して行く予定でこ

ざいます。それに加えまして、現在の、2年次における3つのコースの設備や教育スタッフをより充実させて行くとともに、将来の18才人口の減少期の問題を考慮し、それらのコースに続く第4のコースを設置する方向も検討したく思っております。

最後に、留学生や研修生の受け入れにつきましても益々積極的に、自動車工学に関する知識が一層深く、様々な国の方々にも理解頂けるよう、今まで以上に教育の国際化を推進して行く方針でございます。

時代のニーズを適確にとらえながら、これまで築いて来た学風を損なわぬように、また、20年の歴史ある本学の手で、社会における自動車整備士の位置づけを向上させて行けるよう、私自身も教職員と団結して失敗を恐れずに情熱を持って取り組む覚悟しております。今後共、校友会の皆様方にもあたたかく見守り頂き、時にはご意見・ご忠告をして下さいますようお願い申し上げます、私のご挨拶とさせていただきます。

『中日本自動車短期大学の思いで』



神野学園理事長

名誉学長 中村 清

五十七年四月、六年前立教大学を定年退職した際、他大学からのお招きもあったが、この中日本自動車短期大学にお世話になったことは、今思い出してみますと、これからの私の人生に於て、どんなに「プラス」となることでしょうか。始めに、この六ヶ年間、学長としての重責をつつがなく果たすことができたのは、本学の教員・職員の全員並びに校友会の方々の絶えざる暖かき御協力の賜であり、衷心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

又、私の学長在任中、創立十五周年、二十周年と二度も記念すべき行事に参加することができ、この感激は今でも忘れることはできません。加えて本年三月迄の卒業生も約一万余名を数えることができ、まことに嬉しき限りです。

次に、今思い出してみますと、私は、約四十年近く、四年制大学、

大学院教育のみの経験しかなかったのですが、この六年間で、わずかではあるが、短期大学教育（特に工業技術系）の経験ができ、同じ大学とは言いながら、前者と後者との相違を知ることができました。又、六ヶ年間、毎月約半分位は、単身赴任という貴重な生活体験もすることができました。次に、私は東京で生れ全く地方は知りませんでした。この六年間で都会生活、地方生活の長短を知ることができました。有り難き限りです。

以上のように、岐阜での生活、中日本自動車短大での六ヶ年間は、楽しく、且つ恵れた生活であり、将来の私の人生生活に有益であったと確信しており、これ又、前記の皆さまに対し感謝申し上げます。最後に、中日本自動車短期大学並びに同短期大学校友会の益々の御発展と、ご一同の御多幸を御祈りいたします。

認定試験の合格率

研 修 課

本学の教育は、自動車の専門的技術・知識の取得に必要な科目の開講とその社会で生きるのに必要な資格取得の講習や自動車整備士試験の実技免除講習に多くの力が注がれています。

しかしながら、今年の合格率は、本学が過去集計してきた中でワ

スト2という惨憺たる成績でした。これについて、関係者一同は幾つかの原因を分析し、その対策を考え、問題解決の取組を強化しています。

過去の認定試験合格率を振り返るとジーゼルは変動率が大きく、ガソリンは小さいのが特徴です。今後は、合格率の変動で一喜一憂するのではなく、卒業証書と合格証書を手にする教育取組が期待されます。

外国人研修生と国際化

犬 園 遺 男



端は2年前の秋、中国汽車考察団の一行が米国視察を終えて日本に立寄った際、日本での見学先に本学を選んだことにある。昨年は本学の中山工学教室主任以下四名が招かれて中国を訪問、中国の主要自動車工場を視察された。その際今後の計画として相互に人材を派遣して日中の友好と相互理解を深めることを確認、今回二名(方、沈の両氏)はその第一陣として派遣されたものである。

母校の国際化が新たな一歩を踏出した。本年はマレーシアからの研修生五名に加えて中国からの研修生二名が研修に励んでいる。中国からの研修生は本学独自の国際化路線に沿うものである。事の発

方青山さんは四十六才、第一汽車高等専科学校の幹部エンジニアである。沈炳生さんは三十才、湖北汽車工業学院の助教授である。両氏の本学での目的は、日本の進んだ自動車技術の調査と整備技術

教育の効果的方法について研修することである。

方さんの分解・組立ての腕前は実習室の先生も舌を巻くほど見事なものである。一方沈さんは方さんの分解したものを詳細にスケッチ、構造・作動について詳しくメモをとっている。

研修は七月末日を以て終るが両先生の研修が成功裡に終わり次のステップへと繋がることを願っている。

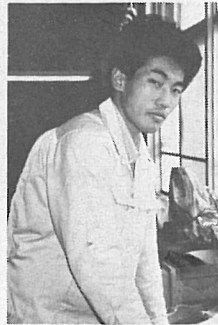
マ国の研修生はいつもながら大変陽気で、チーム・ワークがとれている。学内寮に起居して共同生活を楽しんでいる。五名とも日本で言う工業高校もしくは職業学校の自動車科の先生である。研修項目を見ているとマ国のモーターゼーションの度合いが推察できる。今回は「自動車排出物とその低減策」が含まれており、マ国の自動車保有台数の増加と、大気汚染への配慮が必要になりつつあることを示している。

本学が開学以来受入れてきた留学生の数は六十人に上る。また一九八四年に始まった海外研修生の受入れは今年度を含めて二十五人に達する。これを国の数でみると七か国になる。もはや外国人受入

れの第一段階(学習と経験の段階)を脱して新たな国際化の段階に進まねばならないと痛感している。

OB近況

名古屋大学工学部実験実習工場勤務
一九八四年三月卒 丹羽高校出身
立花 一志さん



クルマ技術を学術研究に生かして

工学研究用の実験装置を試作するのが私の仕事ですが、あらゆる先端技術研究に関わるだけに、自動車技術は役だっています。文部技官のOBは他にもいますが、もっと増えることを期待しています。そのためにも基礎をしっかりと身につけて、国家公務員試験などのチャンスを見逃さずトライしてみることが大切だと思います。

広島トヨベット(株)営業第三課勤務
一九八七年三月卒 三原高校出身

新宅 照美さん

女子学生の皆さん

頑張ってください!

小さい頃からクルマが好きなので、メカトロニクス(電子機械)を学べるということで、中日本へ進みました。在学中は、コンピュータや電子制御関係を特に一生懸命勉強しました。希望どおりに地元企業に入社。現在はフロントサービス業務担当です。しかし、女性メカニック希望の私は、トヨタ検定一級取得をめざし、努力あるのみ。

東京海上損害調査(株)損害一部
自動車一課勤務

宮沢 隆 幸さん

メカトロニクスを学ぶ

保険業界へ

中日本では電子機械コースでしたが、時代の花形ということで、この「アジャスター」という職業を選びました。現代は自動車社会なので、この種のトラブルは年々増える一方。だから、車体に詳しい人材が求められているのです。

調査内容は様々であり、覚える事も多く、懸命な毎日ですが、知識の吸収にファイトがわきます。

ダイハツ工業(株)実験部材料研究課勤務
一九八三年三月卒 石山高校出身

田中 智 幸さん



緊張! 緊張!

クルマ技術の最先端

メーカー研究室の仕事は、毎日が新鮮。千分の一ミリ単位の精度が要求される劣化試験のための塗板作製。自らプログラミングしたコンピュータによって測定する様々な実験、さらには他の部とのプロジェクト研究。企業の製品開発の明暗に関わる仕事だけに緊張と感激の繰り返しです。クルマ技術の先端に触れるクルマ好きの僕には、たまらない仕事です。

通信欄

アメリカシアトルに在住しており今後も生活の本拠となりますのでよろしく

730516

小池 秀 幸

十四年前に取得した二級整備士のおかげで今年四月富士火災のアジャスターとして入社する事が出来ました。

720643

渡辺 文 雄

学生当時、材料力学の中島先生お元気ですか、小生も海外サービスの市場担当をへて、現在教育資料を手掛けておりますが、苦勞しております。坂祝へ行く機会には是非お会いしたく思っております。お体にご自愛ください。

750312

佐藤 賢 三

前に務めていた会社が本社と合併したため現在にいたっております。ペーリングの(プラスチック)玉溝を旋削しており、円高のために生産を上げるため、仕事がありすぎる位で毎日が非常に忙しく三時間の残業で大変です。

781034

古屋 邦 久

在 学 生

今回は、現在々々中の女子学生十七名の内、二年生四名に登場してもらい、本学に対する感想、学生生活、将来についてレポートしてみました。



橋本直美
岡山県出身

私が本学に入学しようと思った理由は、より多くの車の知識を知り、身につけ、整備士になりたいと思ったからです。

大学受験の時、両親、高校の先生方の反対を受けましたが、結局本学へ入学することになりました。しかし、いざ入学してみると、地元の友人の間では車の事を良く知っていると言われても、こんなに多くの車が好きな人達の中では、私の知識も、ほんの微々たるものだし、授業もだんだんわからなくなってくるし、『親の反対を押し切って入った。』というプレッシャーもあり、かなりあせりましたが、やっと今、授業についていけるようになってきました。でも、もっともっと勉強し、私の入学したいと思っただ理由でもある二級自動車整備士

の試験になんととしても、合格したいと思っています。



羽田友美子
三重県出身

この学校に入学してから、一年が過ぎました。入学したと同時に「来る所を誤ったな。」と後悔しました。でも入った以上は仕方がないと思い、新しい生活が始まったのです。何もかもが初めてのことで思っていたよりも楽しく、同寮の子達とも仲よく生活していく事も出来ました。女の子もみんな同じように、車や単車に興味があったりして、性格的にもあっさりしている、いい人ばかりでよかったとつくづく思います。女の子が少なただけに良い面もあれば悪い面もあります。「来る所を誤った。」と、ほとんどの女の子も一度は思っただ事です。自分だけかと思っていた事でも、みんな同じ様に思っていたりして、誰もが心の中で思っていること、悩み事なんかを話し合ったりして、この学校に来て、良い友達がたくさん出来た事が私にとって、一番良かったと思います。残り少ないこの生活を有意義に過ごしたいと思います。

私が本学に入学するのに、誰の反対もありませんでした。しいて言えば、私自身が戸惑っていました。車は好きだったけれども、内部の構造や原理などに対して全く無知でしたし、私には数学を必要とする工業関係は不向きだという考えがあったからです。しかし、「これからは資格がものを言う時代」と考えていた父親に、女でも出来ない事はないと勧められるうちに私も、やれば出来ると思い、入学を決意しました。



平見 薫子
兵庫県出身

始めは、新しい環境で何事も新鮮で、楽しい事ばかりでした。しかし、授業が進むにつれて、だんだんと勉強が難かしくなり、いろいろな人に教えてもらいながらようやく、就職を考えるところまでくることが出来ました。

本学に入学した最大の目標は、二級整備士資格なのです。残り少ない学生生活を講習などに全力投球するつもりです。女でも、やれば出来るということ、先輩方が実証されているので私も引き継いで一生懸命がんばろうと思

ます。

最後に、本学に入学して多くの友人を得、多くの体験が出来たことを、とても感謝しています。



村井ひとみ
兵庫県出身

私は、この学校へ入るまで、そして今でも、不安で不安で仕方ありません。車・単車が好きで、自分で直せたらどんなにうれしいだろう。とさえ、二級整備士の資格も取得できるというので、それまで公立の工業大学へと考えていたのをいきなり、私立のしかも、下宿をするしかない岐阜のこの学校へ入りたいと思うようになりました。車の事なんて、ほとんどわからなかった私は、男子がほとんどの学校で、本当についていけるかどうか心配でした。

そして、入学して一年ちょっとなんとかやっとなつてこれ、今、就職活動です。今日まで、何度もやめたい。来るんじゃないかと心配してました。けれど、ここまで頑張ったのだから、就職は当然サーピスで、と思ってもなかなかサーピスではとってもらえず、それに、サーピスで私なんかがつとまるの

だろうかと不安な毎日です。

しかし、私は、この学校へ入った以上、整備ができるようになりたいし、二級の資格も取りたいです。あと一年もないけれど、今までの以上に頑張つて、もっと沢山の知識を身につけたいと思います。

長野県 支部について

第一期卒業生 福田 陸

大学も設立二十周年を昨年迎え、又新しい節目の年へと学園本部を中心に頑張っておられる事と思います。私も昨年会社説明会のため、大学を訪ね、その変り様におどろきました。特に新しく開設された車体整備コースの充実した教育設備又今の時代にマッチした電子機械コース等、いろいろな面で大学全体が大変活気に満ちています。

さて学友会長野支部設立を目指していますが、私を含め皆様大変忙しくなかなか実行に移せないと云うのが現状であります。長野県は広く県全体を一つにまとめる事は難しく、東・北信地区と中・南信地区の二つに別けて設立したく考えております。活発で明るく先輩、後輩の関係なく、和気あいあ

いとした支部を作りたいと目指しています。

その第一歩として私の勤める会社中・南信地区が主体でして、東・北信地区にはなかなか連絡が取れない状態であります。この学友会報を読まれましたら、私ほど言う方がありましたら御一報いただき東・北信地区の取りまとめをお願いしたいと思っております。

第二に中・南信地区では当社社員に話し卒業生に連絡を取り、第一歩として名簿を作成したいと考えております。御賛同頂ける卒業生の皆様御連絡下さい。

一人一人輪を広げ長野県支部設立に向け頑張りたいと思っております。最後に卒業生皆様の御活躍と御多幸をお祈り申し上げます。

〒三九〇

松本市鎌田一丁目十一―一二

トヨタカローラ南信(株)

松本営業所 福田 陸

☎(〇二六)二二五九〇二〇

愛知県支部

設立に向けて

第一期卒業生 半谷 和光

開学以来二十年、最も多くの卒業生を出している愛知県は、自動車産業と特に結びつきが深く、こ

れからも母校とのつながりや、我々卒業生の果たす役割は、地域や社会に大きな影響があるものと思っております。

このような状況で未だ愛知県支部の設立が立ち遅れていることは、愛知県出身者の皆様に対し誠に申し分けなく、併せて学友会の今後に対しても、一日も早く支部を設立し、すでに設立された各方面の皆様と共に、母校及び学友会組織の中で活発な活動を展開せねばならないと考えております。

二年程前、愛知県支部設立に際し、まず第一に会員相互のつながりを深める。第二に地域社会への貢献を学友会支部を通して提供する。そして第三に母校発展の為の協力。これらを目的として準備に入りました。

また愛知県出身者は間もなく三千名に近づいており、非常に大きな組織となります。その為愛知県支部は、名古屋を中心とした尾張地区と、三河地区との二つの地域に分けての活動を目ざして行く予定です。もちろん当面は中央の組織作りが第一の課題となり、本部役員の方々や、支部準備委員の方々のお力を借りて行かねばならないと思っております。

二十年前に比べ大変な変化を遂げてきた日本経済にあつて、自動車産業もその変化の中で素晴らしい技術向上を計ってきました。それにつれて母校の果たす役割や、学友会会員の社会での活躍は、今後いっそうの期待が高まるものと思っております。その為にも支部設立が会員相互に、また後輩にとつても意義あるものと思っております。

現在の活動状況は、名古屋を中心とした尾張地区において、私を含め五、六名の準備委員の方と、「まず同窓会と合わせて設立を。」と考へ、学友会役員の方や、準備委員の方のご協力、ご意見を元に、企画検討を重ねております。

お互いの仕事の違いや、在学中の仲間も思うように連絡が取れない状況も実現へ向けて、大きな壁となりますが、愛知支部の設立が学友会の発展となり、母校の発展につながることをなれば幸いな事と考へます。

いずれにしましても今後残された課題も数多くありますし、準備に協力していただける会員のメンバーも不足していますので、この紙面をお借りして一人でも多く設立に向けての参加協力をお願い申し上げます。左記に連絡先等を書

しましたので是非御連絡をお願い致します。

愛知支部設立準備事務局

〒四五一

名古屋市西区城西町二五五

半谷和光(第二期卒)

☎(〇五)五〇三―七七六六
〒四八八

尾張旭市北原山町陀摩屋敷十五

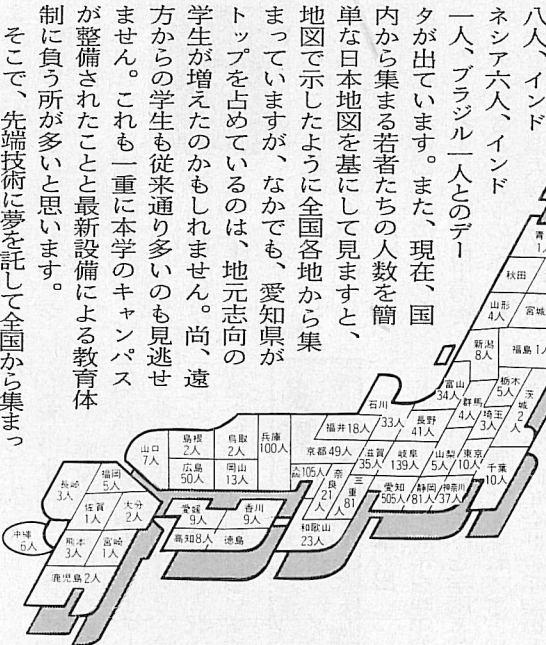
杉山武文(第七期卒)

☎(〇五六)一五三―六四二九

先端技術に夢を託して

全国から集まる若者たち

一九八八年四月現在における調査によると、在学生数一四九二名中、国内一四八四人、外国人留学生八人とのデータが、打ち出されている。また、留学生総数は、六十一名にのぼり、内訳としてタイ三十一人、台湾十四人、マレーシア



八人、インド
ネシア六人、インド
一人、ブラジル一人とのデータが出ています。また、現在、国内から集まる若者たちの人数を簡単な日本地図を基に見ますと、地図で示したように全国各地から集まっていますが、なかでも、愛知県がトップを占めているのは、地元志向の学生が増えたのかもしれない。尚、遠方からの学生も従来通り多いのも見逃せません。これも一重に本学のキャンパスが整備されたことと最新設備による教育体制に負う所が多いと思えます。

そこで、先端技術に夢を託して全国から集ま

- ・田中裕之(二年生)神奈川県出身「オールマイティーな自動車博士……それは私です。」頑張ります。
- ・堀井俊宏(二年生)静岡県出身ユニークな発想、技術すべてが大好きなHONDAで自分を試してみたい。
- ・長谷川哲也(二年生)愛知県出身レーシングカーのメカニックになるのが夢。F3のメカニックになれたら最高。
- ・三村実(一年生)長野県出身小さい時から車が大好き。将来はメーカーの研究室で燃費向上の問題に取組みたい。
- ・大前征幸(一年生)岐阜県出身エレクトロニクス・エンジン関係を重点的に学び、個人のレーシングチームを持つのが僕の夢
- ・清水規親(二年生)三重県出身整備士二級を取って、将来はレーシングのメカニックとして活躍したいです。
- ・増岡雄(一年生)愛知県出身ボディなど車体に関する分野で新しい商品開発に携わりたいです。
- ・島田新友(二年生)石川県出身自動車メーカーで技術開発を担当

当するのが小さいときからの夢です。

- ・中川淳(二年生)京都府出身自動車の最先端技術を身に付け、メーカーの開発部門に就職することが希望です。
- ・山下敦(一年生)大阪府出身二輪の技術開発、二輪GPファクトリーチームのメカニック……これが私の夢です。
- ・村井ひとみ(二年生)兵庫県出身兄の影響で車大好き人間になりました。「女性の整備士」カッコいいと思います。
- ・YUSUF YUYUS(一年生)母国・インドネシア二級整備士資格を取り、母国で自動車整備工場をつくりたいです。
- ・吉池秀則(二年生)広島県出身メカの判るレーサーとして、HONDAのファクトリーチームで活躍したい。
- ・武政享(二年生)岡山県出身私の目標は、車の性能を極限まで引き出せるチューナーになることです。
- さまざまな夢を託して、全国から集まる学生諸君に対して、我々OB一同、陰ながら応援したいものです。

三輪車レース

先日(五月十五日)インディ

ジャパンカップ人力三輪車レースが多治見市美濃焼卸センターで行われ、中日本自動車短大のNAC・RAINBOWが出場したと伺いまして早速レーススタッフのキャプテンである西側通雄先生にインタビューしてみました。

Q 今日はお忙しいところ時間を頂きまして恐縮です。早速ですがレーススタッフの構成について教えてください。

A 下記表にまとめてみました。

Q 全体のメンバーとして、慎重派、行動派、努力家、真面目でもあり、またのんびりやの人も集まっていると伺いましたが、特に本学学生で目立つ印象を受ける人はいますか？

A 袖野君は、技術にかけては中日本ピカイチかな？ 林君は、中日本きっての慎重派やないかと思うよ。

Q ありがとうございます。皆様それぞれの持ち分を大会では発揮されたことと思います。質問は飛躍して、先に進ませてもらいますが、レース当日はどのくらいの

レース スタッフ

ドライバー	ピット	ラップ集計	撮影
清水 啓司 袖野 崇司 (本学学生)	鹿子嶋 正夫 藤村 幹好 岡村 好大 森 孝義 (本学学生)	木下 勝一 桜西 側通 中村 勉 (本学学生)	青木 恒隆 横井 大野 宏 (本学学生)

※ 敬称省略

が「町起し」で行われたイベントなので、レースそのものにチャレンジするチームとエンジョイするチームとに二分された感じでした。上位入賞は、本格的なマシンとドライバーを揃え、激しいデットヒートが繰り返されました。その中に私たちのチームが加わられた事は大変光栄でした。

Q 相手方チームから何か学び得た事、又感じたことがありましたら述べて下さい。

A ちょっとピントが外れているかも知れませんが、見知らないチームの人たちとでもマシンを通じながら気軽に話せる事かな。

Q ところで、チームが発足したのはいつ頃ですか？

A 今年の二月かな、新聞でレースの事を知って皆に話したときから。

Q このチームが発足した動機は何ですか？

A 学生と教職員が一体となって技術と体力を試そうと思ったのが動機かな？

Q 質問は変わりますが、レースに出場するまでのコストや日数はどのくらい費やしましたか？

A パーツ類、遠征費含め10万円位かな、日数はマシンの基本構

チームが参加しましたか？

A 40チームが参加しました。その内私たちの参加したシニアクラスは30チームでした。

Q 惜しくも優勝を逃がしたと伺いましたが、今回のレースで感じたこと、又今の心境をズバリ述べて下さい。

A 多治見市の青年グループ(FNCFフリーダム・ネットワーク)

想を考え図面作成から完成まで約一カ月かかりました。

Q 三輪車製作における最も苦心したところは何ですか？

A 基本構想を考えると、自転車と同じドライブ・フイリングをもたすには、どうしたらいいのかと考えた時。その他には車体を手放した時に直立を保持させる為の機構製作かな？

Q ドライバーの人に伺いますが、当日のコンディションはどうでしたか？

A 当日は早朝からの雨で良いわけないでしょう。マシーンがコーナーでスリップしないかとレースが終わるまで、そればかり気に配って運転してましたよ。

Q ドライバーにとって最も要求される条件とは何でしょうか？

A 強靱な体力と耐久力、それに精神力も要求されるね。

Q ドライバーも含め今回の経験を基にレースにおいて、何が一番大切だと思われましたか？

A メカニックとドライバーの絶大なる信頼感、レース中はピットとドライバーとのコンビネーションじゃないですか。

Q その他何か皆さんに意見がありましたらズバリ一言、いってください。

A 本学の学生諸君、又OB諸兄のあなたも体力を持てあそばせているんじゃない？ このようなイベントにどしどし参加してエンジョイしたらいかがでしょうか？

Q 最後の質問になりましたが、今後の目標抱負を述べてください。

A 来年に向けて稼働中といきたいけど、これからは私たちにあって、もっと大事な省エネカーレースがあるから、それが終わったらまた三輪車作りに専念したいと思っています。そして来年は優勝をねらいたいな。

Q お忙しいところありがとうございます。今後益々のご活躍を期待します。



Q どうもありがとうございます。ガンバリます！！

私たち学友会も今年で二十周年を向えました。現在会員も一万名を越え、全国各地で御活躍の事と申します。

さて、昭和五十七年に学友会総合名簿を作成し多くの方に御活用いただきましたが、その後更に名簿の整備を重ね、学友会の二十周年を記念し、二十期生までの新総合名簿を作成しますのでお知らせします。五十七年から毎年多くの住所変更等を行ない、より良い名簿になりますので、希望者は同封のハガキにてお知らせ下さい。

尚、名簿委員会では、毎年会報を通じ、OB諸兄の住所、勤務先変更等に対応していますが、毎年百数十名の住所等の変更通知が届くと共に宛先不明として返送される数も非常に多いのが現状です。住所等変更の生じた場合は、整理番号(わからない場合は学生番号、もしくは卒業年度、クラス等わかる範囲)を記入し、お手数ですが学友会事務局までご連絡下さいませお願いいたします。

同窓会について

母校では、昨年開学二十周年の記念行事が、さまざまな形で盛大に行われました。またキャンパスは、校舎・グラウンド・敬愛寮・駐車場に続き、実習棟の建設が行われており、すでに八十パーセントができあがり、残りの部分も今年の十月頃には完成の予定です。

開学間もない頃はおろか、ここ五、六年前に比べても、母校の発展の様は、目を見張るばかりです。そして今年には岐阜未来博も開催され、OB諸兄が当地へ足を運んでいただくにも丁度都合の良い時期でもあります。

実習棟の完成時期に合せ、今年十月頃に当地にて一期生から二十期生までの卒業生が集う同窓会を開催する予定です。

詳細について検討し、開催要領がまとまりました折には、卒業生各位にご案内を送付致しますので、是非とも多くの卒業生諸兄にご参加いただきますようお願い申し上げます。尚、要望等ございましたら、学友会事務局まで一報いただけると幸いです。

新総合名簿のお知らせ

編集後記

開学二十周年という記念すべき年を迎え終え、本年度は新たにスタートを始めた第一歩の年であるように思われます。まずは、平野新学長就任、そして今年度には、新実習棟の完成等、今後の学友会と母校の増々の発展に期待を寄せてよい年ではないでしょうか。また、学友会支部としては、神奈川支部が設立した等、学友会一同として喜ばしい限りではないかと思われま。今後のご活躍に期待を寄せるとともに、本年度は、「ぎふ未来博」も開催され、会員の皆様も岐阜を訪れる機会ができる事と思われま。すから、是非一度母校に立ち寄り下さる事を編集担当者としても願っています。おかげ様で、学友会会報も第七号を発刊する事ができ、マンネリ化しつつある会報をより会員の皆様に飲んで頂ける充実した内容として、学友会の皆様の多大なるご協力を基に、編集担当者も頑張っております。今後の新たな期待によせて、編集後記の結びとします。

同窓会について